

両崖山自然観察研修

① ねらい 本校西側に位置する両崖山の散策を通して、動植物の種類や生態、地形の変化等を含む観察実習を行い、自然に対する興味・関心を高める。また、昨年度実施した調査項目等を比較しながら、今後の継続的な環境教育に役立てていく。



② 実施概要 11月3日(金)補習の午後、1年生の希望者13名と2年生の科学部員3名、本校職員2名の計18名が参加しました。佐野市在住の「モリ田守」代表谷雅人先生をお迎えし、最初に講義(里山の自然環境や森林の階層構造等)を受講後、両崖山に登りフィールドワークを行いました。栃木県は暖温帯と冷温帯の境界に属し、照葉樹林と夏緑樹林の両方の植生が見られることや尾根道は乾燥しやすくマツなどのパイオニア植物が優占種となるなど様々なことを学びました。

③ 生徒の感想

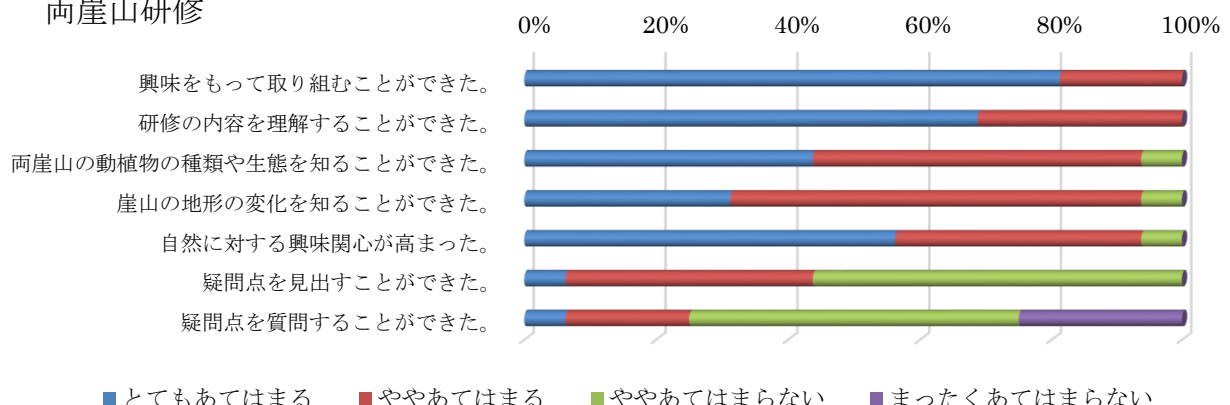
- ・1人で森林に入ったら意識していなかったことが、先生方の説明を聞きながら山道を進むことにより、知らない世界があることを知った。
- ・森の見方や、観察しながら入ることで身近な自然に触れることができた。また葉の種類の見分け方を知った。
- ・学校の北側にありいつも見ているだけの両崖山に登り、里山と人々との共存や生態系について少し知識が増え、里山の大切さを知った。また併せて体力のなさを実感した。



④ 成果と課題

フィールドワークを実際に体験することで、現場で行動することの難しさと楽しさを学ぶことができた。各サンプルの分類方法、保存管理方法など、次年度事業に引き継ぎ可能な状況を残していくことが大切と思われる。

両崖山研修



日本科学未来館・船の科学館研修

① ねらい 身近な生活の中にある「はかる」という行為を通して、最先端技術の中に潜むハイテク測量技術を調査し興味・関心を高める。また、各施設を見学することにより、科学技術を利用してよりよい社会を実現するための方策を考える。

② 実施概要 7月1日(土)第1学年希望者39名が、日本科学未来館の常設展および船の科学館を見学した。日本科学未来館および周辺施設では様々な分野の最新科学技術が展示されており、実際に見たり、体験したりすることにより、普段の授業では得られない学びを得ることができた。また、自分たちのまだ知らない科学の世界に触れることができたことはとても貴重な経験であった。

③ 生徒の感想

- ・ 考えることの重要性、自分たちが今時代の分かれ目の中にいること、国際的なコミュニケーションができるようになることが必要だということを再確認することができた。
- ・ 科学についてより興味をもつことができた。科学技術はもの凄く進歩していると感じた。機会があったら貴重な経験として科学の知識をたくさん学びたいです。
- ・ ひとくくりに「科学」といっても、新たな細胞をつくる研究だったり、南極の氷の成分を研究するものだったり、ロボットを通して「人間性」とは何かを追求したりと、様々でどれもとても興味深いものだった。じっくり話や説明を聞くこともできたので、とても良い経験になったと思う。
- ・ 前に1度来たことがありましたが施設が新しくなっていて、とても新鮮でした。また10年後くらいに行ってみたいです。



④ 成果と課題 見学や体験的な学びを通し、科学技術の発展及び最新技術について、その活用について楽しみながら学ぶことができた。生徒それぞれが興味関心を持ち、考えること、学ぶことの大切さ重要性を再確認できた点が成果として挙げられる。この経験を日々の学習と結び付け、深い学びを図ることが今後の課題である。

日本科学未来館・船の科学館

